

# パリ万博はこうして始まった



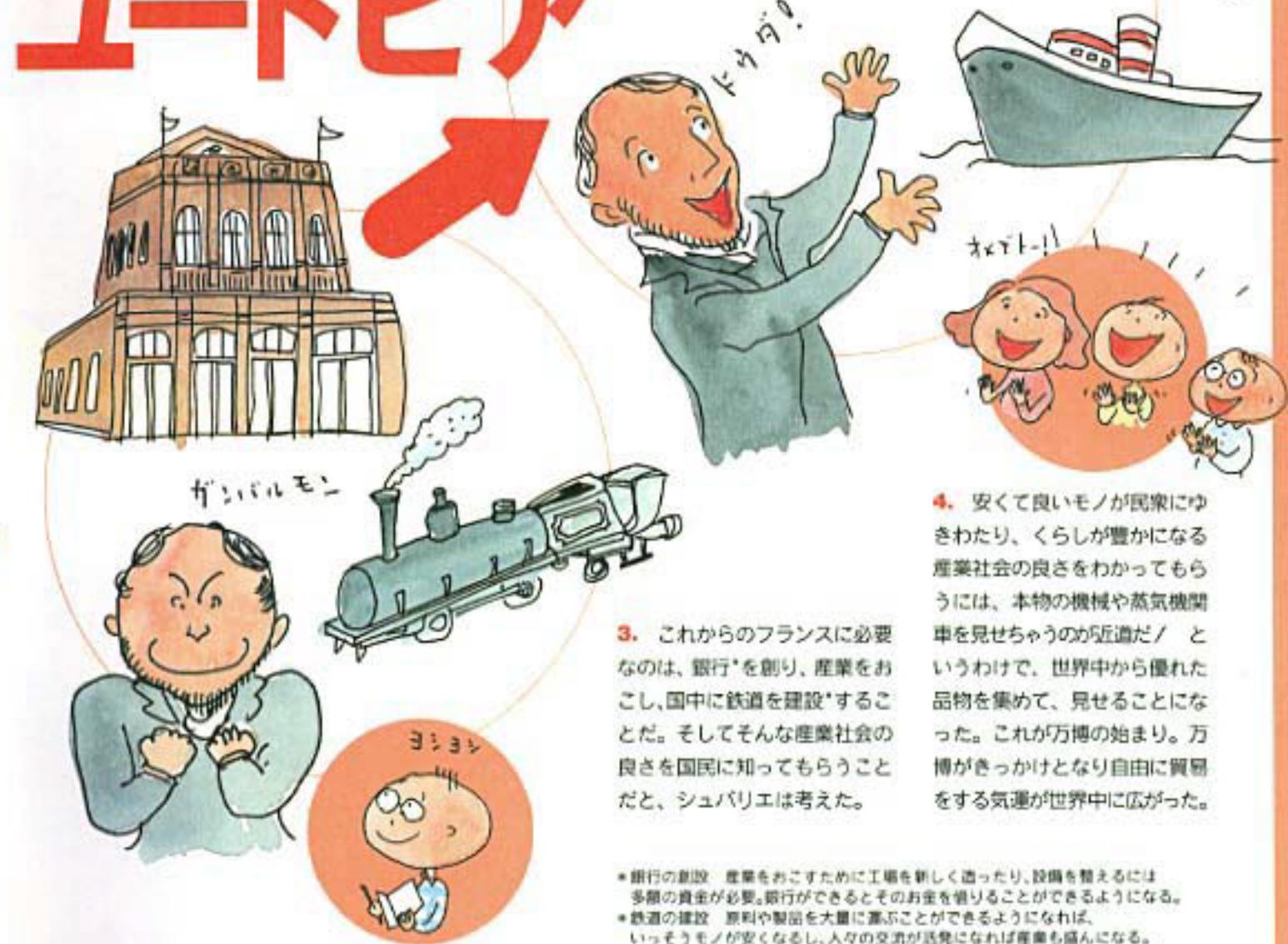
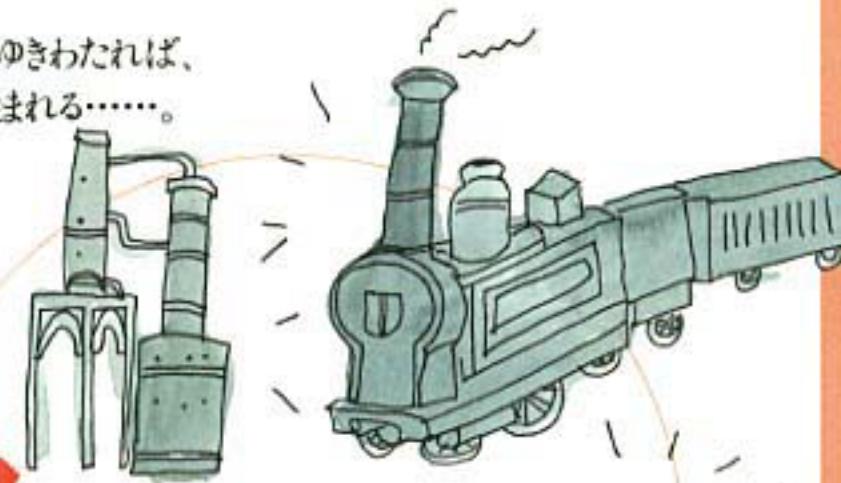
1. 当時のフランスは政治も不安定で、一部の裕福な人々（貴族）はいたが、多くの民衆は貧しく悲惨な生活をしていた。シュバリエはそれを何とかしたいと思っていた。

2. そのころ海の向うのイギリスでは産業革命が進み、ロンドンで最初の万博が開かれた。万博のアイデアはフランスが先だったから、シュバリエは大いに悔しがった。

## シュバリエが描いたユートピア

ナポレオン3世の時代、経済顧問になったミシェル・シュバリエ(1806~1879)は、万博をはじめ様々な産業政策をおし進め、フランスをヨーロッパを代表する国にした。

19世紀に起きた新しい産業の波は、蒸気機関車や自動車、電気など新しい機械やエネルギーを産みだし、大量に製品ができるようになってきた。安くて良い製品がたくさんできて、広く世界に届きわたれば、みんなのくらしが楽になって、豊かな社会が生まれる……。19世紀に5回もパリで開かれた万博は、そんなユートピアの実現をめざした姿だった。



4. 安くて良いモノが民衆に届きたり、くらしが豊かになる産業社会の良さをわかってもらうには、本物の機械や蒸気機関車を見せちゃうのが近道だ！ というわけで、世界中から優れた品物を集めて、見せることになった。これが万博の始まり。万博がきっかけとなり自由に貿易をする気運が世界中に広がった。

\*銀行の創設：産業をおこすために工場を新しく造ったり、設備を整えるには多額の資金が必要。銀行ができるとそのお金を使えることができるようになる。  
\*鉄道の建設：原料や製品を大量に運ぶことができるようになれば、いっとうモノが安くなるし、人々の交流が活発になれば産業も盛んになる。